

地理		教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果				
東書						
1. 大阪市教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点						
<p>写真や図表を豊富に掲載し、これらの資料の読解をはじめとした作業活動を促す「えんぴつマーク」を適宜設けることで、資料の読解力を育成する工夫がみられる。日本の歴史の中で形作られてきた人々の暮らしや伝統産業、伝統文化等を取り上げ、日本の伝統や文化に対する理解と愛情を深めていくことができるよう、その地域の様子がイメージしやすい写真や資料を豊富に用いている。東日本大震災をはじめとする様々な自然災害と、その地理的要因や、復旧・復興のための諸機関との連携や人々の協力、さらには防災・減災に向けた取り組みを取り上げている。写真やコラム等を豊富に掲載することで、イメージしやすく、自然の脅威、防災・安全に対して、主体的な意識や態度を養えるような配慮がなされている。日本における領土問題に関しては、本文を補完する内容として、「地理にアクセス」において、地理的な背景を取り上げることで、問題の正しい理解や解決に向かうための意識等を促している。(②③⑦⑧)</p>						
2. 教育基本法に基づく観点						
<p>本文での学習内容を補充する「地理にアクセス」「深めよう」などが多数設けられており、学習内容に関連した知識が習得できると共に、多角的に物事を考察し、学習をより深めることができる。「深めよう」では、世界各国や地域における現状や課題などが取り上げられており、自国と比較して考え、他国との違いを認め、多民族・多文化共生の重要性を認識できるよう、多角的・多面的な思考力を育成し、異文化に対する理解や尊重する態度を育成する工夫がみられる。「日本の自然災害と防災への取り組み」では、災害の様子や援助に関わる人々のリアルな写真や資料が掲載され、「深めよう」で地震や津波発生の仕組み、防災・減災の対策を取り上げることで、防災・安全に対する意識や主体的に社会に参画する態度を養うことができる工夫がみられる。また噴火や地震、津波などの自然災害の写真等を扱っているのも、目次に、指導に配慮が必要であることを示している。(①③④⑤)</p>						
3. 学習指導要領に基づく観点						
<p>見開きに小学校社会科で学習した内容をふりかえる場を設け、中学校地理へのスムーズな移行ができるよう配慮されている。各章のはじめに、小学校での学習内容をふりかえる活動が設けられており、小・中の学習の円滑な接続ができるよう工夫されている。生徒がつまづきやすい事象や抽象的な用語については、巻末の「用語解説」で解説し、基礎基本の知識を確実に定着させることができるよう配慮がなされている。各見開きには説明や要約などの「えんぴつマーク」、学習内容を確認する「机マーク」等、段階的な言語活動を行うことで、思考力・判断力・表現力を育てていけるよう配慮がなされている。地理の学習では欠かせない地図やグラフ等の読み取りについては、「地理スキルアップ」というコーナーで、詳しくわかりやすい説明により基礎的・基本的な地理的技術の習得ができるよう工夫がなされている。加えて、景観写真の読み取り方も扱われている。調べ学習に必要な技能を身につけるための「調査の達人」を多数設け、その手立てを示すことで、探究的な学習を主体的に進められるよう配慮がなされている。また文章だけの説明ではなく、写真やグラフを多用し、そこに着目点を示してあり、生徒の主体的な学習を促している(①⑥⑨⑩)</p>						
4. 外的要素に関する観点						
<p>写真や地図の色合いのコントラストがはっきりとしていて、印象に残りやすい。グラフの色分けがはっきりとしているので、視覚的な見分けがしやすい。視覚的効果の高い、幅広のA3版を使用し、写真や資料を豊富に掲載するとともに、写真や文字の鮮明さに留意することで、見やすい紙面構成となっている。(①②③)</p>						
5. 構成・配列に関する観点						
<p>世界の諸地域では、見出しのページに人々の様子と、その地域の大きな地図が掲載されており、今後の学習課題に取り組みやすい工夫がみられる。「環境・エネルギー」「伝統文化・宗教」「防災・安全」「人権・平和」の4テーマでは、一つの社会的な課題や事象について3分野それぞれの視点から考察できるよう各分野間で連携を図り、一つの事象を多角的・多面的に考察する力が養えるよう工夫がなされている。さらに、「分野関連マーク」がついている。(①)</p>						
6. 資料その他に関する観点						
<p>巻末に、世界の国々や主な国のあらし等の統計資料が掲載されており、大まかなことであれば、教科書のみで効率的に学習が進められるような工夫がなされている。生徒がつまづきそうな事象や抽象的な用語については、巻末の「用語解説」で詳しく解説をしている。(②)</p>						

地理		教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果			
教出					
1. 大阪市教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点					
<p>各単元の初めに、生徒の立場に立った疑問や学習課題が明確にされており、単元を学習する際に問題意識を持ちながら、自分で考えたり、意見交換する学習活動が充実できるようになっている。人権・平和・環境・文化などの普遍的な概念について理解と考察を深められるよう、日本や世界各地に生きる人々の姿をさまざまな写真資料で取り上げている。近畿地方では、特に大阪が歴史と深いかわりのある街であること、また現代は商業の街として経済活動が発達していることについて、産業と人口にかかわるグラフなどの資料を用い、大阪の経済活動の発達の推移や課題を、わかりやすく説明している。また、大阪経済の復興について触れることで、大阪への郷土愛を育むことにつながる。東北地方では、伝統文化や産業を中心に、色鮮やかな写真や分布図などを豊富に掲載し、視覚的に理解しやすい工夫がなされている。また、配役に新しい東日本大震災に関連したコーナーも設けられ、主権者として地域社会に参画する意思の育成を図ることができるよう工夫されている。カラーユニバーサルデザインを意識した、誰にでも見やすい配色やレイアウト、表現方法、文字などの工夫がなされている。《②⑤⑦⑧⑩》</p>					
2. 教育基本法に基づく観点					
<p>世界と日本の各地の様子を豊富な写真資料を用いて取り上げ、地理への関心が高まる構成である。地域調査について、詳しくその調べ方が掲載され、自分なりの解釈を加えて調べ学習を行ったり、意見交換したり学習活動が充実している。教科書に実際に凹凸のある点字加工が施され、共に生きる社会の在り方に興味を引き出す工夫がみられる。自然災害と防災、開発と環境保全に関する具体的な事例が多くあり、自分たちの暮らしとのかわりについて考察できるようになっている。生徒になじみ深い国旗を用いて、その国の伝統や文化の意義とその継承についての理解が深まるようになっている。《①②③④⑥》</p>					
3. 学習指導要領に基づく観点					
<p>世界の地域の気候の違いを雨温図を効果的に用いて説明している。キャラクターや食べ物など生徒にとって身近なことを通して、興味・関心をひいて地域の特色が学ぶことができるようになっている。世界の気候の学習では、課題解決学習に活用できるような、気候の分布がそれぞれ分かれている主題図や雨温図が掲載され、気候帯ごとの特色を理解しやすくなっている。世界各州の単元の終わりに「地域から世界を考えよう」という地域に着目した内容があり、第4章では世界の様々な地域の調査方法や実例が詳しく説明されている。世界の諸地域と日本の諸地域についての取り扱いが総ページの半分以上あり、各地域の取り扱いは見開き4～5ページである。地域の学習については、歴史的分野と公民的分野との関連付けがされており、特に近畿地方では、歴史的背景から地域のつながりと現代の様子について学習できるようになっている。第1章の直前に設けられた「地理にアプローチ」では、小学校で学習した地図やグラフに関する基礎的な知識を確かめる作業活動がある。各見開きページに「ふりかえる」を設け、ステップ1では、学習事項を確認し、ステップ2では、それらをもとに活用と表現を行えるよう配慮している。《②③④⑤⑦⑧⑨⑫》</p>					
4. 外的要素に関する観点					
<p>従来よりも一回り大きくワイドで見やすいA版のサイズである。授業の流れや学習の見通しがつきやすいよう配慮され、1時間見開き2ページで構成されている。カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、色彩などの特性を踏まえ、判読のしやすさを意識して、誰にでも見やすい配色やレイアウト、表現方法、文字（UDフォント）などの工夫がされ、すべての生徒が学びやすい紙面づくりになっている。《①②》</p>					
5. 構成・配列に関する観点					
<p>学習指導要領の単元に基づく単元配列になっている。特に近畿地方では、歴史的分野と関連付けられ、構成されている。また、日本の領土に関する内容において、歴史的分野での学習と関連付けて記述されている。ヨーロッパの国々では、すべての項目が欧州連合に関連づけられる構成になっており、ヨーロッパ州について体系的に学習ができるようになっている。日本の諸地域の学習で、7地方ごとに学習をふりかえるのではなく、7地方を3つの地方（部）にまとめて、各地方のふりかえりを行うことができるよう工夫されている。《⑩⑫》</p>					
6. 資料その他に関する観点					
<p>2010年以降の最新の写真が多く掲載されており、最新の世界情勢についてわかるようになっている。教科書本文と資料の関連付けをわかりやすくするため、資料との関連を示す番号や資料ページ・関連ページ（教科書最下部に関連項目とページ）などが掲載されている。世界や日本の諸地域に主な地図や雨温図が体系化され、同じ色調やサイズ、配置を統一することで各地域を比較しやすく、理解が容易である。《①②》</p>					

1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点

最初に「学習課題」、学習後には「確認しよう」「説明しよう」「学習をふりかえろう」があり、予習復習がしやすく授業内容の確認ができる等、主体的に学習できる工夫がある。世界の気候では、同頁に様々な気候帯の雨温図と共にその気候帯がどのような地域なのか分かる写真も掲載されており比較学習がしやすい。「技能をみがく」で、雨温図の読み取り方の詳しい説明があり、グラフを読み取る方が確実に身につくよう配慮されている。グローバル化が進む国際社会で生き抜く力を育むため、現代の諸地域を取り巻く動向や課題を見据えることができるよう、「共生」「環境」「防災」の3テーマからなる羅針盤マークのコラムを2か所設け、現代および将来の社会が直面する課題をわかりやすく示している。各国や地域の人々の様子を写真で多く取り上げ色々なページで目にする事で、日々の営みの様子がイメージしやすく、互いの差異を受容する態度を育成できるよう配慮されている。カラーユニバーサルデザインフォントの使用で文字が読みやすく、折れ線グラフは形を明確にするために線に太くする等、すべての生徒に読みやすい表現の工夫がみられる。《②③④⑤⑥⑧⑩》

2. 教育基本法に基づく観点

言語活動を促すための多様な「吹き出し」（確認しよう、説明しよう、やってみよう、探してみよう）等が充実しており、基礎的・基本的な知識・技能の習得や、自ら考察できる力を身につけやすい工夫がなされている。諸地域の学習の最後には、振り返り学習ができるページが設定されており、習得した知識の確認・整理をすることで、より学習を深めることができる。震災、復興、防災など日本や世界を取り巻く自然環境や災害について、写真やコラム、ハザードマップの活用、また身近なニュースを深く掘り下げて扱うことで、自然の脅威に対する関心を喚起させ、自ら考え、行動する力を養う工夫がみられる。見開きの写真には国旗が一括に掲載され、諸外国に興味を持ち、尊重する態度の育成につながる。《①④⑤》

3. 学習指導要領に基づく観点

各地域の日々の生活がわかるような写真が豊富に掲載されており、その地域の人々を取り巻く自然環境や生活の営みをイメージしやすい。随所に、教科書や地図を活用して作業をする「やってみよう」や、地理の基礎的な技能を身につけるため「技能をみがく」といったコーナーが充実しており、具体的な作業学習を通して、基本的な地理的スキルを確実に習得できる工夫がなされている。学習過程において、「やってみよう」「確認しよう」「説明しよう」などや、各地域学習の最後には「学習をふりかえろう」という、既得知識を整理するページが設けられており、思考力・判断力・表現力を育成するための幅広い言語活動が行えるよう配慮がなされている。また、「学習をふりかえろう」のページの最後には、「探究しよう」があり、学習内容を踏まえて、自ら想像し、考える場を設ける工夫がみられる。地域調査では、身近な地域への理解を深め、主体的に調査が進められるように、調査の進め方を丁寧に説明しており、プレゼンテーションソフトを使った発表例も紹介している。北海道地方の学習では、北海道の自然や産業の発展について歴史的背景に着目し、人々の生活やアイヌの伝統文化などといった北海道の特色について、豊富な写真や資料を用いて紹介しており、文化の理解につながる工夫がみられる。《③⑥⑧⑩》

4. 外的要素に関する観点

ページがめくりやすく、指定されたページを開くことがスムーズにできる。堅牢なつくりだが、持ち運びを考慮し軽い紙を使用しているので教科書が軽い。教科書の字体が、ユニバーサルデザインフォントを使用しており、読みやすい。文字がはっきりと濃いので、読みやすい。写真の掲載が多く、色も鮮明なので、学習内容や地域の様子を生徒がイメージしやすく、生徒の興味・関心を高めることができる。《①②③》

5. 構成・配列に関する観点

一つの単元が導入からまとめまで統一されており、系統的に学習できるよう構成されている。日本と世界の諸地域の学習では、ページ展開が同様の形式であるので、板書計画、また、ノートでの復習をする際に、系統立てて比較しながら学習しやすくなっている。各ページの本文に合わせ、語句解説が掲載されており、図を用いて説明するなど、よりわかりやすくする工夫がみられる。世界の諸地域の学習では、自然環境・生活・文化だけでなく、歴史的分野と関連付けた内容も掲載されている。《①②③》

6. 資料その他に関する観点

導入に、本文の記述と関連した大きな写真を掲載したり、人物を多く登場させたりすることで、地域の姿や人々の生活をイメージしやすく、生徒の興味・関心をひく工夫がみられる。グラフは、該当する国や地域のみを色分けすることで、資料の読み取りがしやすい工夫がなされている。目次がシンプルで見やすいつくりになっている。《②》

1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点

世界各地の人々と生活と環境では、見開き左側に写真、右側に本文という構成が統一され、様々な地域に暮らす人々の営みがイメージしやすく、系統立てた学習ができるようになっている。人権・平和・環境・文化などの普遍的な概念について理解と考察を深められるよう、日本や世界各地のそこに生きる人々の姿をさまざまな写真資料で取り上げている。世界の諸地域では人々の暮らしが実例を用いて紹介されている。特に、ヨーロッパ州の単元ではそこに住む人々の暮らしの様子の写真を多用し、人々の暮らしを現在の人物の声コーナーで紹介するなど、多文化共生社会の重要性を認識できるようになっている。日本の諸地域の学習では、近畿地方については歴史的観点で単元が取り上げられ、現代の発達とのつながりや身近な地名を取り上げた特集が多くあり、より自分の住んでいる地域に親しみをもって学習できる。見開き2ページごとに掲載されている「学習の確認と活用」で、授業ごとの要点が確認でき、学力向上につながる。カラーユニバーサルデザインやゴシック体に統一したルビラチなど特別支援教育への配慮がある。<⑤⑥⑦⑧⑩>

2. 教育基本法に基づく観点

世界の諸地域などで「地理+α持続可能な社会」を設け、環境や未来に対する態度を養うことができる工夫がある。「声コーナー」を設けて現地の人々の声を紹介することで、多文化共生社会の重要性を強調している。アイヌや沖縄の文化に関して、伝統的なものだけでなく現代文化に根差しているものを紹介することで、身近に感じ、文化の理解につながる。東京オリンピックやクールジャパン、TPP問題など最新のトピックスが今日的課題として紹介されている。各地方の伝統・文化やそれにかかわる産業を紹介するだけでなく、郷土を愛し、伝統・文化を大切にす人々の活動を紹介することで、我が国の郷土を愛する心が育つよう工夫がなされている。<①③⑥>

3. 学習指導要領に基づく観点

災害・防災についての学習は合計10ページにわたって詳しく説明され、さらに各地方でも課題として取り上げられ、自助・共助・公助について生徒の記憶に新しい東日本大震災の例を用いて考えられるようになっている。言語活動コーナーや学習の確認と活用など様々な地理的課題について考え、判断し、自分の言葉で表現することを促せる学習活動が設定されている。各単元の初めに、生徒の立場に立った疑問や学習課題が書いてあり、単元を学習する際に問題意識を持ちながら、自分で考えたり、意見交換する学習活動を充実させることができるようになり、アクティブ・ラーニングの活用につながる。日本の諸地域では様々な主題図を用いて、地域のごく様々な観点からよりよくわかるよう工夫されている。見開き2ページの欄外にそのテーマに基づく歴史的分野・公民的分野や小学校との関連を書いてあり、他分野や小学校の範囲と関連して学習できるようになっている。知識だけでなく、教科書の単元を学習する中で、自分の考えをまとめ、友達と意見を交換し、多角的に学べるよう言語活動コーナーでは単元ごとに「読み取ろう・考えよう・まとめよう・伝えよう」などの課題が用意されている。<①②③④⑩>

4. 外的要素に関する観点

伝統・文化と現代文化が融合した表紙で生徒の興味・関心を引くものになっている。カラーユニバーサルデザインに考慮し、読みやすいフォントを使用し、ルビは本文と異なる字体に統一し、読みやすさに配慮されている。また、写真内の文字も白抜きをして読みやすさに配慮されている。また、グラフも実数値を添え、色以外の線の種類などでも分類されており、読み取りやすい工夫がある。本文に関連した写真や資料が豊富である。<①②③>

5. 構成・配列に関する観点

見開き2ページの教科書欄外の最下部に連携マークを設け、現在学習しているテーマと小学校での学習や他分野との学習を有機的に関連づけて学習できるように工夫されている。ヨーロッパ州の国々の単元では、すべての項目が欧州連合に関連づけられる構成になっており、体系的にヨーロッパのことが学習できる。世界の諸地域の単元では、すべての諸地域の学習の最初に地図と気候区分図が掲載され、特色がわかりやすくなっている。<①②>

6. 資料その他に関する観点

掲載されている写真や資料が2010年以降の最新のものが多く、また、実在する人物の話を取り上げた「声コーナー」など、親しみやすい資料で世界や日本の諸地域を身近に感じられる。世界や日本の諸地域に主な地図や雨風図が体系化され、同じ色調やサイズ、配座を統一することで各地域を比較しやすく、理解が容易である。「さくいん」では、本文中に太字で掲載されているものが、本文中に出てくるページは、朱書きで対応しており、自主的な学習を促す工夫がみられる。<①②>